

新潟県 公民館月報

昭和61年3月号

発行所 新潟県公民館連合会

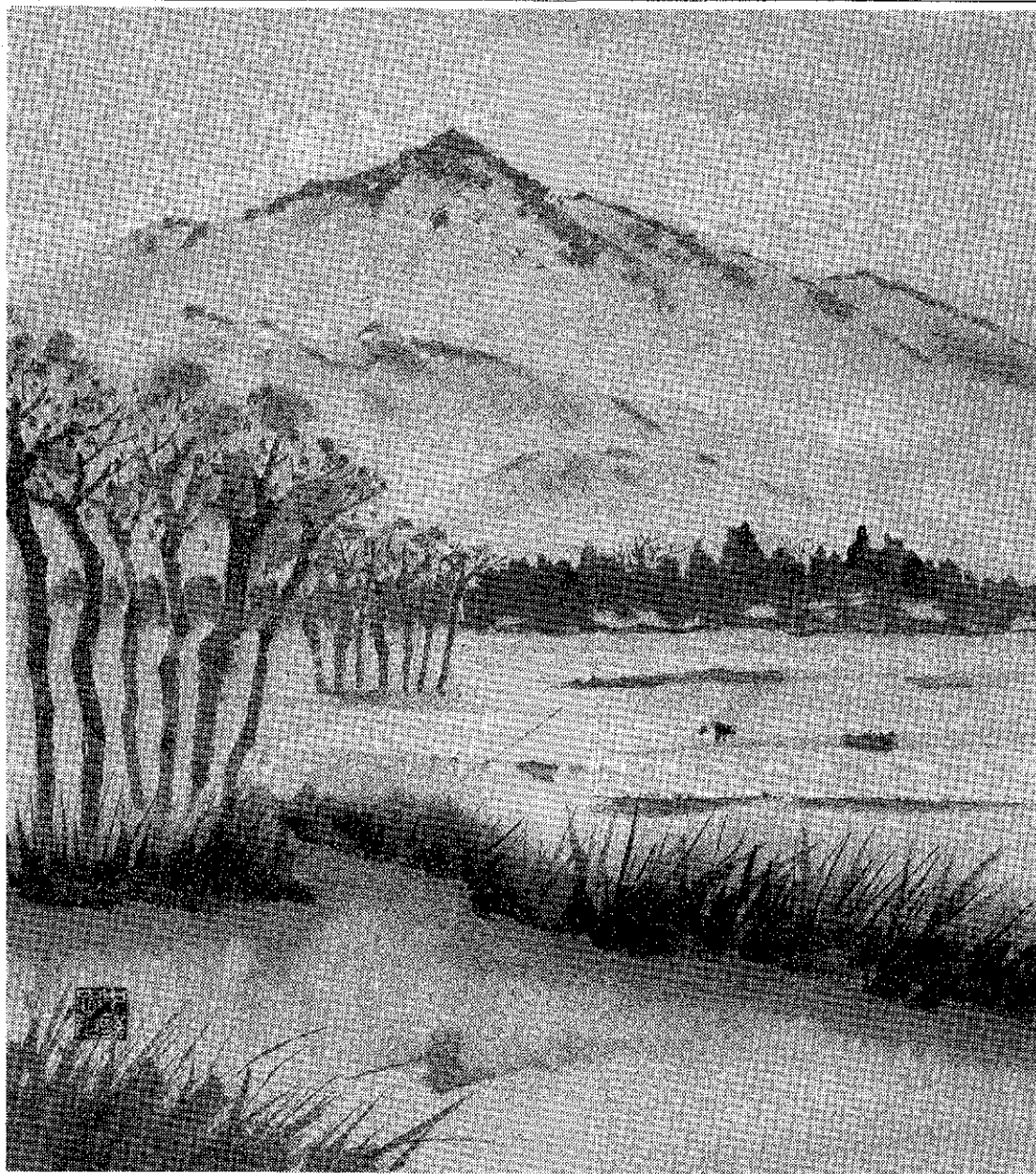
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【電話・新潟 (0252) 24-6073 又は 板替新潟0-4049】

発行人 会長 佐藤 眞武

編集人 事務局長 本田 清

【定価1部 120円 年共 1,440円】



五頭山の映える風景

新発田市を中心とした近郷の人々は、朝な夕なに、秀峰二王子岳と五頭山の山なみを望み、四季の移ろいを思い、農耕の指針として生活してきた。

秋晴れのある一日、五頭山の美しい姿を求めて歩いてみた。

此処、加治川の支流坂井川のほとりにも以前の自然が戻りつつあった。昭和四十一年と、翌四十二年の水害で壊滅的な被害を受けたことが嘘のようであった。

岸辺には葦や水草が茂り、国道二九〇号線を走る車の音をよそに、水鳥の羽音さえ聞こえるような静けさがあった。

豊作の跡の刈田には、葉の枯れかかった「ハサ並木」だけが残り、すでに紅紫に衣がえした五頭山と共に、澄んだ川面にその影を落していた。

絵・文、新発田市公民館
墨彩会 中野 忠次

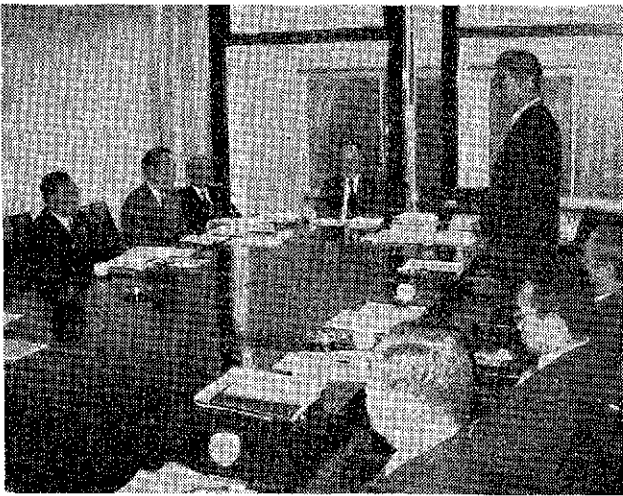
第五回理事会開く

本田事務局長が退任 後任は元県社教主事上村捨二郎氏

二月二十五日、新潟市内の県林業会館(本会事務局所在地)で正副会長会議と第五回理事会が開催され、本会の「新年度の事業計画ならびに収支予算案」「本会職員の人事について」など第七案件が協議されたが、ほぼ原案とおりの承認され四月中に開催される新年度第一回評議員会の審議にゆだねられることになった。

なお、長年本会事務局長として県公連事業遂行の核となつて活動してきた本田清事務局長は一身上の都合で三月末をもって辞職することになり、新事務局長には上村捨二郎氏(元県主任社会教育主事)が充てられることになった。

同日午前中に正副理事会議について検討、午後二時、副会長会議が開かれる。副会長は、三月末をもって辞職すること承認された本田事務局長の後任人事について理事には必要があり、任職委員長より経過説明があつて役員選挙で村捨二郎氏の事務局長就任が承認された。



(第五回理事会であいさつする上村氏)

このあと「第37回公民館大会の基本計画について」柏崎市提出の原案が検討され、今後の諸会議を経たうえ成案を得ることになった。つきに報告事項として、会長専決事項二件の報告、各種大会、研究会等の報告、昭和61年度公民館予算増額運動結果、月報編集委員会開催結果の報告があり、次の議題が協議された。

一、公民館の諸性に關する調査研究について、(新潟大学教育学部社会教育研究室との共同調査)

第5回 理事会出席者名簿

役職名	氏名	所属公民館
会長	佐藤 真 武	新潟市中央公民館
副会長	田中 岬 岬	長岡市中央公民館
副会長	星野 正 夫	上越市公民館
理事	石塚 夫 進	五泉市公民館
理事	山崎 純 純	安田町中央公民館
理事	岩崎 照 正	相川町公民館
理事	丸山 新 一	小千谷市公民館
理事	村山 藤 近	六日町公民館
理事	伊藤 井 昭	糸魚川市中央公民館
理事		新井市公民館

二、昭和61年度県公連収支決算見込み予算案について
三、昭和61年度県公連事業計画ならびに収支予算案(案)について
四、本会職員の給与支給規程等の改正について
五、昭和61年度第一回評議員会開催について

この後、各理事から、いくつかの意見が述べられたが、このなかには本会規則のほか諸規程を改正しなければならない事項もあり、これについては今後、正副会長協議を経て、改めて理事会、評議員会にかかるとした。

公民館勤務・回顧二十年

ひそかな誇りをこめて(1)

大正十四年十月生まれの私は、昨秋六十歳となり、昭和六十一年三月三十一日をもって柏崎市役所を退職する。

先般、全国公民館連合会から公民館勤務・回顧三十年の一文を書くようにとの依頼があつて、あらためて昭和三十年以来三十九年における私の公民館勤務を振り返つてみた。

公民館番頭日記

四十一年前、昭和二十年八月、水戸陸軍航空通信学校で終戦を迎えた私は、復員の前夜「これから私の人生を、この戦争で亡くなった多くの仲間たちの死を無駄にしないために役立つ仕事に探げよう」と心に誓った。

昭和三十年六月に西中通公民館勤務を命じられたが、この仕事を私が求めた仕事であり、復員前後の誓いを果たすにふさわしい仕事であると思つた。

昭和三十四年、社会教育法制定十周年を記念して県公連が実施した記念論文募集に、私は「公民館職員通信教育講座の開設を提案する」と題する一文をかきあげた。

昭和三十四年、社会教育法制定十周年を記念して県公連が実施した記念論文募集に、私は「公民館職員通信教育講座の開設を提案する」と題する一文をかきあげた。

昭和三十四年、社会教育法制定十周年を記念して県公連が実施した記念論文募集に、私は「公民館職員通信教育講座の開設を提案する」と題する一文をかきあげた。

昭和三十四年、社会教育法制定十周年を記念して県公連が実施した記念論文募集に、私は「公民館職員通信教育講座の開設を提案する」と題する一文をかきあげた。

昭和61年度第37回県公民館大会の開催要項について、かねてから開催地柏崎市公連・上越公連及び事務局で検討してきたが、このほどまとまり理事会に提起された。

第37回新潟県公民館大会要項 (案)

1. 趣旨

行政改革が進む中で市町村自治体の活性化をめざしてコミュニティづくり、町おこし、村おこしが叫ばれ、その中核となる人づくりの重要性があらためて認識されている。この時にあたり、公民館とコミュニティづくりの関係を研究協議をし、県下公民館振興の契機とするため第37回新潟県公民館大会を開催する。

2. 主催

新潟県公民館連合会 新潟県公民館振興市町村長連盟
新潟県教育委員会 中越地区公民館連絡協議会 柏崎市教育委員会

3. 主管

中越地区公民館連絡協議会 柏崎市公民館連絡協議会

4. 後援 (略)

5. 期日

昭和61年9月26日 (金)

6. 会場

柏崎市市民会館

7. 参加者 (略)

8. 大会主題

公民館とコミュニティづくりを考える。

9. 日程

10:00 11:00 12:00 13:00 14:30 15:00

開会式	基調講演	昼食	研究協議	総括指導	閉会式
表彰式					

10. 基調講演

演題 公民館とコミュニティづくりの関係・課題
講師 全国公民館連合会第5次専門委員会副委員長
立教大学教授 岡本 包治氏

11. 研究協議

主題 公民館とコミュニティづくりの関係を考える
登壇者 講師は岡本包治氏、質問及び意見発表者は、上・中・下越公連から各1名、司会は柏崎市公連。
・研究協議は基調講演で提起された課題を中心に、上・中・下越公連代表1名により行いものとする。
・必要に応じ参加者による具体的実践例の発表を行う。

12. 昼食

参加者の昼食は主催者が用意する。

13. 参加費と参加申込み

- (1) 参加費は1人につき1,700円 (昼食代を含む) とする。
- (2) 参加者は、別に定める様式の申込書により、市町村



公民館に勤めてもう六年を過ぎすのに、まだ公民館を再理解できず悶々とした毎日を送っている。



「これからの公民館」

山田 欽二

僕は単純に似せて穴を掘るといって、公民館は柄に似てない大きな役割を背負っているのだから、安らぎのある家庭を作らねばならない時代だ。

「自由集まり、学び、結ぶ」場としての機能を發揮し、地域活動を進め、「住民パワー」を作ることが必要である。パワーは人を集め、自治意識を高める。(加茂市公民館長)

はなからうか。近年住民の学習要求は極めて多様になり、しかも個人が学ぶ気になればいつでも学べる社会であり、非常に高度なものを専断的に学べるし、情報も豊かである。だから公民館を企画するに当たって、専任制や専任職員の必要性が叫び、豊かならなければならない。ついでに進めるため、有用な人材を養成する必要がある。公民館のあり方を話し合うと、「人」の問題に発展し、上」に絞ってはどうであろうか。

五年のサイクルで人事の交流がなされることである。公民館へきて直ぐ対応できるよう「事務提案」とか「公民館事典」のようなものを作り事務能率の向上に役立ててはどうであろうか。

ごとにとりまとめ、参加費を添えて9月10日 (水) 必着にて大会現地事務局に申し込むものとする。

14. 宿泊

参加者の宿泊については各自で設営することとする。

15. 大会現地事務局

〒945 柏崎市諏訪町6-6 柏崎市中央公民館内
第37回新潟県公民館大会事務局
(電話) 0257-22-2637 24-5597

資料 歓迎

公民館で作成した資料や文芸作品集または絵巻などをご厚意ください。また、県内の愛蔵品も紹介してまいります。

投稿 歓迎

感想文なども結構。折紙や、気球にペンを走らせてください。採用された作品を差し上げておきます。

— 編集部 —

色紙 (表紙絵) を募る

公民館の絵画教室などで製作、利用グループの中で絵をよめる人の作品など、なるべく縦長の絵柄で書かれたもの。絵の内容は、地域の「名勝・旧跡・文化財」などのほか表紙にふさわしいものであれば水彩画でも墨絵でも結構です。

なお、お送りくださる絵には、その絵に関する説明文を付してください。

字数は四百字程度、絵の作者、または別の人が書いていたとしても結構です。

今後のあり方 — 第8回全国公民館研究集会から —

3 発表2に対する質疑

- (1) 指導者の発掘について
- (2) 若者の参加状況について
- (3) 指導者の養成について
- (4) コミュニティ活動を全市的に広げたときリサイクル運動との関係について

鯉 コミュニティ施設の貸し出しについて

4 発表2に対する応答

- (1) PTAの方から指導者を探している。
- (2) 青年の参加は少ない。
- (3) 青年は指導者になる前の段階であり、今後に期待したい。
- (4) リサイクル運動はコミュニティづくりに大きなウェートを占めており、各地区にコミュニティづくりの柱となる組織があり、その中に組み込んでいく。

鯉 地域住民の目的がコミュニティに関するものならば、使用を許可している。

III 討議内容

1 コミュニティの意味

- (1) コミュニティの語源は、コモン(共生・連帯)とコミュニティオン(親愛)から成立している。
- (2) 簡単な言葉を使って理解してもらう。
- (3) 体験において理解してもらう。

2 コミュニティ意識をもり上げる方法

- (1) 広報紙・広報板の利用
- (2) 標語(スローガン)等の活用

3 青年層への働きかけ

- (1) 肩ひじを張らないで、遊びを中心に人を集め、団体づくりをする。
- (2) 青年は誰かが手を差し伸ばさなければ参加しない。何をすればよいのか分かっていない。
- (3) 集団としてではなく個人として参加させてはどうか。
- (4) 心のふれあいを育てる。

4 公民館はコミュニティづくりにどのような形で取り組んでいけばよいか。

- (1) 公民館でコミュニティの学習をする。
- (2) 公民館でコミュニティのリーダーを育てる。
- (3) 公民館とコミュニティセンターは一体となって活動する。
- (4) 公民館の機能をコミュニティづくりの機能の重要な部分として位置づける。
- (5) 公民館とコミュニティセンターを併設するか、公民館の一部をコミュニティ施設として自由に使えるようにする。
- (6) 各施設が、独自性を出しながらお互いの良い点を吸収していく。

IV 助言者のまとめ

1 コミュニティの意味

住民にもわかり易い形(標語やスローガン等)でとらえる。

2 住民のコミュニティづくりの意欲を高める広報や話し合い等を根気強く続ける。

3 住民のコミュニケーションのネットワークをつくる。

4 全世代を縦断的にコミュニケーションさせる。中心課題を必ずおさえ込んでいく。

5 公民館はコミュニティづくりの仕掛人になる。

6 コミュニティづくりの重要な担い手の青年に参加機会を与える。

物質的・精神的な援助をする。

7 自分たちの地域の個性を主張することも重要な課題である。

地域住民に何ができるか調べる。

8 コミュニティとは

コーこんなことがある。こんなことをしたいとミーみんなで知恵を出しあい、話し合い伝えあってユーユークなアイデアでみんなが参加できる機会をユー二世代・三世代にわたる多くの人がお互いにテ一手をとり、手をとられイーいつのまにか参加している自分を発見できるイベントを。

第五次専門委員会答申 生涯教育時代に即応した公民館のあり方 から

もともと社会教育は、時代の変化を予見し住民がその生活を守り、発展させるのに必要な教育課題をとらえて、適切な学習の機会と場とを提供しその成果を地域に還元することを本旨とするものであり、それは学校教育とともに生涯教育の中核をなすものである。

公民館はその実践の中核機関としての任務を課せられている。(第一部総論による)

かつて全公連の第一次専門委員会は、公民館の目

的と理念を、①公民館活動の基底は、人間尊重の精神にある、②公民館活動の核心は、国民の生涯教育態勢を確立するにある、③公民館活動の究極のねらいは住民の自治能力の向上にある、と表現した。この基本的視点は、今日もなお生きている。ただ変化してやまない現代社会においては、それらを静的に解釈するだけでは不十分であって、より動的な見方と方向づけを行う必要を生じている。(第二部、1公民館の理念による)

コ ミ ュ ニ テ イ 活 動 の 諸 問 題 と

第 8 回 全 国 公 民 館 研 究 集 会 が 去 る 10 月 17・18 日 岡 山 市 で 開 け れ、こ の た び そ の 記 録 が ま と ま っ た。こ の 大 会 で は 「コ ミ ュ ニ テ イ 活 動 の 諸 問 題 と 今 後 の あ り 方」を テー マ と す る 分 科 会 が 開 け れ、基 調 発 表 者 に 本 県 柏 崎 市 中 央 公 民 館 の 徳 間 助 夫 氏 が 参 加 し た の で そ の 内 容 の あ ら ま し を 紹 介 す る。な お 本 年 九 月 中 に 開 催 予 定 の 県 公 民 館 大 会 の テー マ も 「コ ミ ュ ニ テ イ 活 動 と 公 民 館」が 中 心 に な る 模 様 で あ る。

討 議 題 ○ 地 域 づ け り 活 動 を 推 進 す る た め の 課 題
○ こ れ か ら の 具 体 的 実 践 方 策 に つ い て

助 言 者 鳥 取 大 学 教 授 後 藤 誠 也
司 会 者 岡 山 県 真 庭 郡 新 庄 村 公 民 館 館 長 畔 高 義 正
基 調 発 表 者 1. 新 潟 県 柏 崎 市 中 央 公 民 館 参 事 徳 間 助 夫
兼 事 務 長
2. 香 川 県 善 通 寺 市 吉 原 公 民 館 係 員 鶴 川 汎 佑
長
記 録 者 岡 山 市 西 大 寺 公 民 館 主 任 検 山 武 雄
御 津 郡 御 津 町 教 育 委 員 会 社 会 教 育 主 事 祐 森 秀 男

I 基 調 発 表

1 発 表 1— 柏 崎 市 に お け る 実 践 —

- (1) コ ミ ュ ニ テ イ づ け り と 公 民 館
 - ア 「コ ミ ュ ニ テ イ 柏 崎 方 式」に も と づ い て コ ミ ュ ニ テ イ セ ン ター と 公 民 館 は 併 設 し、管 理 費 は 半 分 づ つ 持 つ。
 - イ 公 民 館 は コ ミ ュ ニ テ イ セ ン ター の 性 格 も 含 む。広 い 意 味 と し て の 社 会 教 育 の 施 設 と し て 特 に 新 し い コ ミ ュ ニ テ イ 形 成 と 人 間 性 の 伸 長 に 果 た す 役 割 を 重 視 す る。
 - (2) コ ミ ュ ニ テ イ づ け り の 課 題
 - ア 住 民 の コ ミ ュ ニ テ イ 意 識 を ど う 高 め る か。
 - イ 住 民 の コ ミ ュ ニ テ イ 組 織 を ど う つ け る か。
 - (3) 公 民 館 の コ ミ ュ ニ テ イ づ け り に 果 た す 役 割
 - ア 社 会 教 育 活 動 の 中 核
 - イ 住 民 の 学 習 活 動 の 推 進 役
 - ウ 公 と 民 を 結 ぶ バ イ ブ 役
- む す び
公 民 館 活 動 は 「人 間 尊 重」を 基 本 理 念 と し、コ ミ ュ ニ テ イ づ け り は 「人 間 性 の 回 復」を 目 指 し て い る。
公 民 館 活 動 の 裏 打 ち の な い コ ミ ュ ニ テ イ づ け り は 成 功 せ

ず、コ ミ ュ ニ テ イ づ け り の 伴 わ な い 公 民 館 活 動 は 振 興 し な い。

2 発 表 2— 善 通 寺 市 の 地 域 活 動 —

- (1) 筆 岡 公 民 館 の コ ミ ュ ニ テ イ 活 動
 - ア 三 世 代 交 流 古 里 学 級
 - イ ス ポー ツ 大 会 地 区 対 抗
 - ウ 地 区 文 化 祭 公 民 館 ま つ り
- (2) 筆 岡 地 区 コ ミ ュ ニ テ イ 協 議 会
 - ア 組 織
婦 人 会 や 老 人 ク ラ ブ な ど の 各 種 団 体 の 代 表 者 が 集 ま り 組 織 の 形 が で き た。
 - イ 施 設 の 整 備
地 域 住 民 が 集 ま っ て 話 し 合 い を し た 結 果 「ふ れ あ い の 場」が 一 番 必 要 で は な い か と い う 結 論 に な っ た。
○ か ぶ と 山 ト リ ム コー ス
- (3) コ ミ ュ ニ テ イ に 関 す る 意 識 調 査
「地 域 の 和 を 大 切 に す る」「住 民 が お 互 い に 協 力 し 合 い 地 域 を 自 分 た ち の 手 で 住 み よ く す る」が 83% あ り な が ら、「地 域 の 人 々 と の つ な が り や ま と ま り が 薄 れ て き て い る」と 感 じ る 人 が 40% も あ っ た。
こ の 結 果、コ ミ ュ ニ テ イ の 必 要 を 感 じ た。

(4) 今 後 の 取 り 組 み

ア 補 助 が 無 く な っ た と き の 対 応
資 源 リ サ イ ク ル 運 動 を 行 い、そ の 経 費 の 一 部 を コ ミ ュ ニ テ イ 活 動 費 へ 回 す。

イ 施 設 の 整 備

「か ぶ と 山 ト リ ム コー ス」に 遊 具 や ア ス レ ッ ク の 用 具 を そ ろ え る。

ウ 事 業

住 民 の ふ れ あ い の 場 と し て 「ふ れ あ い 祭 り」を 行 う。

II 質 疑 応 答

1 発 表 1 に 対 す る 質 疑

- (1) 施 設 の 管 理 運 営 に つ い て
- (2) コ ミ ュ ニ テ イ 施 設 の 貸 し 出 し に つ い て
- (3) 活 動 に 対 し て 補 助 金 等 は ど う し て い る か。

2 発 表 1 に 対 す る 応 答

- (1) 施 設 の 完 成 ま で に 住 民 主 体 の 組 織 づ け り を し、代 表 者 と 市 長 が 管 理 に つ い て 契 約 を す る。管 理 費 は 住 民 と 市 が 半 分 づ つ 負 担 し 管 理 は 地 区 指 導 員 と コ ミ ュ ニ テ イ セ ン ター で し て い る。
- (2) 特 定 の 政 治 団 体、宗 教 団 体 へ は 貸 し 出 し を し な い が、營 利 目 的 の 団 体 に は 使 用 料 を 取 っ て 貸 し 出 し を し て い る。
- (3) 活 動 に 対 し て 手 助 け は す る が、補 助 金 は だ さ な い。

公 民 館 関 係 法 令 ・ 解 説

公 民 館 長 ・ 公 民 館 主 事 ・ 公 民 館 職 員 ・ 公 民 館 運 営 審 議 会 委 員 ・ 社 会 教 育 主 事 ・ 社 会 教 育 委 員 ・ 教 育 委 員 会 関 係 者 ・ 公 民 館 を 利 用 す る 人 ・ 社 会 教 育 関 係 団 体 関 係 者 等 の 必 携 の 書 と し て 広 く 活 用 さ れ て い ま す。

◎ 内 容

教 育 基 本 法 ・ 社 会 教 育 法 ・ 社 会 教 育 法 施 行 令 ・ 公 民 館 の 設 置 及 び 運 営 に 関 す る 基 準 規 程 ・ 通 達 「公 民 館 基 準 の 取 扱 い に つ い て」 解 説 つ き。

A 5 判 34 ページ 1 部 300 円 (送 料 実 費)

◎ お 申 し 込 み 先

〒 951 新 潟 市 川 端 町 2-9 県 林 業 会 館 内
県 公 民 館 連 合 会 事 務 局 電 話 0252 (24) 6073

長岡市中央公民館



実践記録レリーズ

(7)

情報化時代を先取り

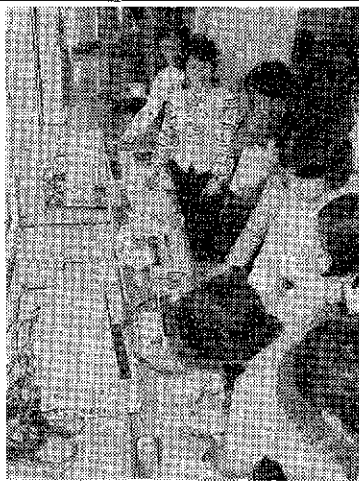
女性のためのINS講座

公民館活動実践記録の原稿を募っています。活動の苦心談・成功例などご送稿ください。

長岡市中央公民館では、趣味講座から教養講座まで、幅広く事業を展開している。そのなかでさらに民間の情報産業とタイアップしてのINS講座(情報機器利用講座)を試行的に企画実施して好評を得ている。

プログラムの多様性を知る

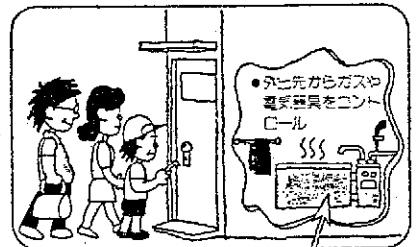
当公民館では働き盛りの中年男女の参加が少なく、どうしても女性層の参加が少なく、どうしてものかと頭を悩ませていた矢先、59年1月付の某新聞に、新潟市で「女性のためのINS講座」がNTTの主催で開設されたという記事を読みました。ちょうど、その頃、東京三鷹市でINSのモデル実験が始まった頃でしたので、新聞を見てすぐに、「よし、INS講座はまさに時代にマッチした企画だと頭に入りました。(たまたま私自身がINSに少々興味があったからかもしれません。)



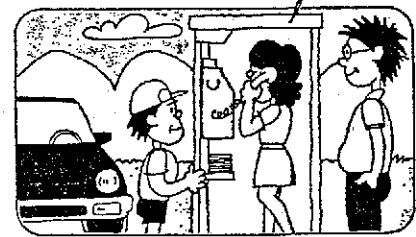
熱心にパソコン実習

新潟市の一番せんじみたアイデアが、内容をより充実させれば良いではないか。特に長岡市は、テクノポリスやニューメディア・コミュニティ構想のモデル地域指定と、21世紀のまちづくりをめざして着々と準備が進められている時期でもあり、この時期を逃がすわけ

で、長岡市在住の方を講師としてまじり向けてみました。次は受講者の募集ですが、一般的に英語のつく表現は、女性に敬愛されるので、少しでも興味をひくように、独自のチラシを作成して各地区館の市有施設等に配付しました。また、地元新聞社やTV局からも御協力をいただきました。しかし、いざ開設してみると、40名の募集に対して参加者は27名でした。表題の英語のせいでしょうかと英語レベルキの人たちを募集できなかったのは心残りでした。参加された人たちは、これからの時代に乗り遅れないように



*テレコントロール……あるさ、その6時には家につくね、じゃあそのおるようどろプロがわいてるよう、この公衆電話からテレコントロールしておきましようか。「そうだね、無ござらすぐおプロにはいりたいからな」



という積極的な人ばかりで、大変熱心に講師の説明に聞き入っていました。講座内容は、4回のプログラムを、①INSってなんだろう ②実際に機器を見てみよう ③INSを支えるちょっと科学的なお話 ④情報通信がつくる未来の暮らしについて語り合おう、というテーマで組んでみました。この中で特に、②では、県内にはまだ機器がないために、キャブはまた機器がないために、キャブ、パソコン、コムエッセ、テレコントロール、ファクスといった種類の機器を、わざわざ東京から運んだり、当公民館内に電話配線設備をするなど、NTTの全面的なバックアップをいただきました。また、④では、参加者の希望で、予定を変更して電話局内の見学をしていただき、交換室やメンテナンスを見たりして貴重な体験ができました。

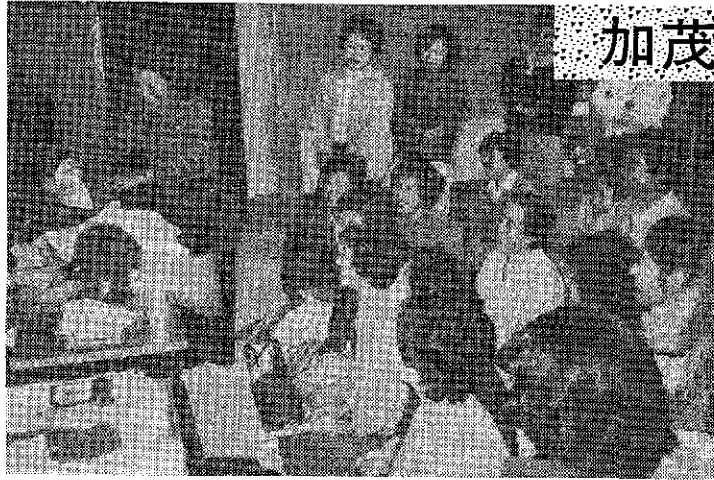
最終回に実施したアンケートで、終わらせていただきました。とかく行政の事業は、参加者数の多少によって成否判断しがちですが、当講座は、参加者が予定数よりも少なかったが、脱落者がなく内容面でも充実していたという点で、成功したのではないかと満足しています。以上で、当講座の紹介を終わらせていただきますが、最後に、今回の企画で感じたことですが、とかく経費の削減を迫られている昨今、今回のように民間のPR事業と上手にタイアップして、企画立案していく方法も必要なのではないかと一ツツけ加え、報告を終わらせていただきます。

加茂市公民館

人間としての魅力づくり

婦人の学習意欲は年ごとに高まっている。だがまだまだ地域活動にまでは発展してないのが実態である。

公民館の学習活動は、個人の教養を高め、生活上の知識・技術を習得する場と機会を提供することは当然のことであるが、それが地域づくりの基礎をなすものとして何らの形で、家庭や地域社会に少しでも生かされるような学習活動を進めることをモットーとしている。



寝たきり病人の看護の心得を学ぶ

◎運営委員会の編成
常々学習熱心な人、三〜四十名を主として、女性セミナーにあなただけを主としてくれませんか。」というふれこみで運営委員をお願いし、「女性の魅力をつくり出す」をメインテーマにして今年度三年になり、ようやく生き生きとしてきた。

地域づくりは女性の活力に頼るところが非常に大きい。このセミナーのリーダーである皆さんは、受講者が女性としての魅力をつくり出す。

生き生きと女性セミナー

り、地域社会において何らかの形で役割をもてるような知識や技術を身に付ける大切な場を作る大きな役割があるので頑張ってほしいと公民館の意向が伝えられ、彼女らはそれを受け、しっかりと受け、年々を通じて委員としての自覚をもち、いよいよ委員としての仕事を始める。

◎学習内容の企画
委員会は四〜五人の小グループで自分の希望や意見を述べ合い、全体討議で集約するパターンである。

最初はなかなか話が弾まないが、徐々に課題意識をばくつかんでもらうために様々なアドバイスを出

しながら、小グループから全体討議へ、全体から小グループへ、そして全体討議へというリズムでバックをやりながら進行するうちに、話し合いも活発となり、二時間の討議を駆け、しつかりとした学習内容を作りあげた。

◎活動の展開
受講生募集と学習活動
かつては公民館が必死に人集めをして、常に二十人を確保していたが、自分たち自身で集めるようになった。自分たち自身で集めるようになった。自分たち自身で集めるようになった。

将来への夢についても友人同士で話し合っって暮らす。実によく集まる。集めるのではなく、集まるのだ。

◎施設
加茂市には独立した建物がなく彼女たちが、と自由集まり、自由な話し合いをする場がなく、今一歩深味のある活動ができないう状況である。そのためまちなかを中食をとりながらセミナー終了後のアンケート結果の分析検討や運営の諸問題について語り合

ついで真剣に話し合っている場面をよく見かけるようになった。ここまでと公民館は側面からのアドバイスをしていけばよい。

何ができるかについても話が弾む。とにかく自分たちの運動がほしい。

◎予算
婦人教育費はわずかに三十五万円、公民館運営費の約九%と極めて少ない予算だ。これまで年間活動を行って行くのだが、もちろん各種婦人団体の教育活動にも充てねばならぬので、資金予算のやり繰りは苦労の連続である。ありがたいた、運営委員会が五百円程度の運営費を受講生から徴収している。学習資料や運営の諸雑費、参加記念品、皆勤賞などに充てセミナーを盛り上げ、自主

プロフィール

川口町社教係長 (公民館担当)
関 武 司氏 (34才)

我が妻である川口町は、大河信濃川、信濃川魚野川の合流地に位置している。総合運動公園の完成で「健康と心」のふれあうスポーツの町が宣言し、町はスポーツを中心とした町づくりをすすめている。町は、町民にも人望は厚い。自身時代はスポーツで鍛えたスマートな身体も、今では少しの太め。日曜・祭日以上の激務に、スポーツを楽しむ時間も取れないのが原因とか。仕事のあと同僚と交わすクラスで、競気を養っている姿も時々見かける。ノミニニ、ゲインションで温かい町づくりに貢献しているのである。カラオケは天下第一品で演歌の、船の世界を得意とし歌い続けている。家に帰れば美人の奥さんと二男二女の良きパパである。

本日ここに紹介する関武司係長は、公民館活動の果敢を担ぐ、中心的人物である。難しい要件も、独特のやさしい口調で乗りこえ、メンバーに処理する手際は、彼の特長である。



「プロフィール」欄の登場者は、ベテランまたは新進を問いません。市町村公民館職員なので、紹介したい方がありません。本記事事務局までお知らせください。

川口町公民館係長 関武司氏 (34才)
星野隆徳

最後の「あとがき」を書く前に

県公連事務局長 本田 田清

県公連を去るにあたって、こんなくどくどしい文章を書くつもりはなかった。これまで何くれとなく私を「支援くださった多くの先輩、同志、知友の方々には大変失礼なことだと思ふ、しかし、いま本音に近いことを書いておかないと永遠にその機会は失われてしまうと思われるので遠慮しながらもあえて書いた多謝。



県公連に勤めて二十七年になつては全く希薄なものにしか感じられなくなつて来た。いつの間にか七代の会長に仕立てられた。表に永かった。その間、多くの知友との交流などを通じて思ひ出も多かった。公民館人の自負と責任が、苦しかったことの方がはるかに多かった。それが、その苦みの依つてきたところでは、あつちから追ひかけてくる仕事の変化までもなければ、人並み以下の月給の安さでもなく、事務所の狭さでもなかった。少し気づかぬところをいろいろだが、「公民館の主体性」また「公民館の専門性」とか「法政正」の問題が日々言われるようになっていった。しかし、その裏面に

解決は得られないままに終つてしまったという点にある。つまり、県公連という組織の持つ幾多の課題を公民館人自身が自らの課題として悩み、そしてそれを少しでも解決していくとする熱意が、いつまのものが、とくに近年私にそのようなものが、あつちから追ひかけてくる仕事の変化までもなければ、人並み以下の月給の安さでもなく、事務所の狭さでもなかった。少し気づかぬところをいろいろだが、「公民館の主体性」また「公民館の専門性」とか「法政正」の問題が日々言われるようになっていった。しかし、その裏面に

る。またそれが具体化するとしていも東して理想的な姿となりうるかどうかは疑問が残る。管理社会のなかには組み込まれてしまつてゐる現在の公民館のあり方は、今後ますますその存立の意義が問はれていくのではなからうか。

たゞまとして職もついでのことゝをいつたり書いたりすることは比較的容易だ。しかし多様化時代のなかにあつてそれを紙面上として実行に移すことの困難さは言語に絶する。

※ ※

これまで課題解決のための処置事項は、一切が事務局長たる私個人にふりかかってくるが多かつた。

前県公連会長石井耕一氏は、はじめて会長に就任されたとき「現在の県公連事務局長の処遇は人権問題である」とまで言明されて、その解決策に奔走された。人の心のわかる人だった。私はその後、このように良き理解者を得て伸び伸びと活動できた。公民館予備も伸びていった。

三、四年ほど前より、私の身边には公私ともに多端となり、とくに亡妻の肩荷の重きを受けたこと、は身心ともに疲労の極にあつた。なんとかが氣力を持ちこたえてはいたものの、こんな巨難をもつ私

自身の病気が再発し、事態は一変した。佐藤事務局長代行を置いていたが、一定の療養期間を過ぎたので、私に代つてほつた。

数年間、全く非常といふべき多事多難な日々を送られてきたので、本当にも心も疲れ果て、「もうどうにもならぬ」と思つた。

「ひと」の人生観と行動観は千差万別である。人間の心と行為との間には説明困難なほどの複雑な壁がある。己れのものさしで推

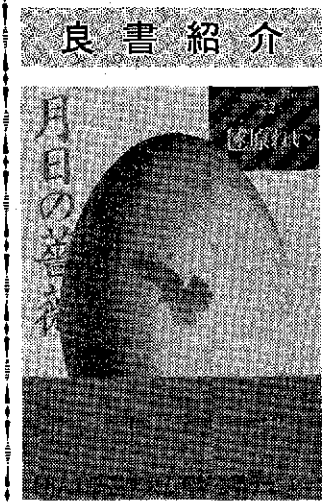
し量の、きめ細かいのていどあつた。さは一したり顔の人間、理解の外にあるものもいろいろ極限ともいふべき事柄に達し、それを克服しようとしてたり。つぎは、牛身の間は身心ともにスタスタと切り刻まれていく。私は「見るべきものは見た」と思つた。

幸い、情を伸ばれば指す神あり」といふが、私は今後数年間、Aテレビ局のレポーターとして、「白鳥」を追つて海外取材の旅に

あとがき

本紙の「あとがき」を書き続けて二十七年になります。編集という仕事は、一時的に力んでてもあとがきがないので、いつも平常心で臨むよう努めてまいりました。しかし凡人の私にはなかなかそうもまづらぬところもあつたので、いまは「あとがき」を書くところ大なるものがあつた。

『月日の薔薇』
鋭い「埴原れい」処女句集



良書紹介

俳人「埴原れい」といっても知る人は少ないかも知れない。しかし、旧名が埴原レイ、小畑戸町出身といふ人は知る人ぞ知る。昭和四十四年度までわが県公連事務局に勤務した才媛。等原さんとは仕事も出来たが反面、詩人であり俳人（新潟日報俳壇編集委員）であった。昭和四十三年大田新潟市で開催された顕彰甲信越俳句大会では、自らつづけた「公民館の詩を贈呈し朗読し、参加者に対し大会の経路を尋ねた。その後帰郷して東京住まい。その帰郷して「集句」に所属し「あつちから」をつづけていた。本句集は